

別紙 1-2 (様式第 1 号・様式第 5 号添付用)

提案型協働事業計画書 (活動支援交付金)

団 体 名	武豊町防災ボランティアの会 : 啓発訓練部会: 事業代表: 鈴木重久		
	設立年月日	平成 16 年	団体の構成人数 83 名
1 事業の名称及び実施期間	名称: 武豊町中学生防災リーダー養成講座事業 期間: 平成 30 年 5 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日		
2 該当する町の施策方針	「22 のめざすべきまちの姿」 災害への備えや日常生活の安全性が確保されているまち 「61 の施策方針」 地域の防犯・防災活動を応援する		
3 解決へ向けて取り組む地域課題	災害地で中学生の活躍が報じられている。早期救助活動には、町内中学生にも期待出来る。家族や隣人の安否確認や、救助対象者の発見など、災害時の防災活動を身に着ける事で、防災意識の高い地域の担い手を育成したい。地域活動にジュニア世代の参加を促したい。		
4 協働対象部署	学校教育課(武豊中学校・富貴中学校)・防災交通課		
5 事業の内容等 (1) 事業内容と方法 (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に) (4) 事業PRの方法 (5) その他	(1) 《内容》中学生の休日等を利用して、講座受講修了した生徒に、「中学生防災リーダー養成講座修了証」を交付する。 《方法》①②③の受講者を資格者とする別紙説明資料②-1・2 ① 講話 (防災講話を受講し、防災意識の大切さを知る) ・学校等で2年以内に防災講話の受講者は①受講済者とみなす。 ② 講座 (災害と備えを学習し、グループワークで防災力を高める) ③ 実践 (応急手当・救援、避難所支援、家具固定を実習する) (2)実施場所、中央公民館等 (3)対象、中学生を募集、(1回40名)応募多数は次回に案内する。 (4)事業PR、講座募集 ^パ を校内掲示、学校集会で募集の呼掛け (5)その他、29年度に②③どちらかを受講した生徒は同等とします ・講座には、武豊町防災ガイドブックを活用する。		
6 事業実施により期待される効果	(1) 中学生防災リーダーを養成することは、防災の担い手育成となり、将来の町の防災力アップに貢献すると考えている。 (2) 防災ボランティア活動者も高齢化し、若い方々の参加が望まれることから、中学生防災リーダーとして地域にも歓迎される。		
7 事業の特徴	中学生防災リーダーは、防災意識の高いジュニア世代を生み出し、自らが考え行動できる、防災力の高い人材育成となり、災害への備えや、日常生活の安全が確保されている町になる。		
8 今後の事業ビジョン	中学生の防災活動を、地域貢献と地域デビューの機会とするには、防災・減災の学びの場が必要と考える。事業を実施する中で関係部署と事業継続の方向性を検討し、事業の予算化を促したい。		
9 他の交付金等への申請状況 (交付金名・予算額) ※なければ「なし」と記載	なし、 但し“29年度事業の申請期間29年4月1日～30年2月28日です。		
10 その他	団体構成人数も毎年減少、高齢化引退者に対し後継者が少ない。防災力増強には、担い手としての後継者養成しかないと考えている。		

提案型事業名称 『 中学生防災リーダー養成事業 』

◇平成 29 年度同様に提案型事業へのご理解、ご支援をお願い致します。平成 28 年の受講申込 42 名中修了者 38 名「武中 26 名（男 12 女 14）富貴中 12 名（男 7 女 5）」平成 29 年度受講修了 29 名「武中 18 名（男 8 女 10 名）富貴中 11 名（男 4 名女 7 名）」
※ 講座修了者 67 名の内卒業生 $26+4=30$ 名、在校生 $12+25=37$ 名となります。

《 中学校へのお願いについて 》

- ① 中学生防災リーダー養成講座、受講者募集案内の校内掲示。
- ② 全校集会での受講者募集案内。
- ③ 全中学校生に応募用紙配布と回収。（平成 29 年同様のご協力をお願いします）
- ④ 提案型事業取組みの学校側専任者の選考。（取組み経過報告等相互連絡をします）
- ⑤ 防災貢献生徒として学校に報告します。

学校でも、地域の防災活動者として称えて頂きたい。

※養成講座出席者には、ボランティア保険の準備を致します。

《 事業提案理由 》

東日本大震災では、釜石の奇跡といわれる中学生の避難行動、避難所での中学生ボランティアの活躍が注目されました。武豊が巨大地震等の災害に遭ったら、自主防災会組織の活動が期待されています。しかし、時間帯により壮年代は、町外勤務者も多く、一刻も早い救助活動などには、武豊町内の中学生にも期待出来ます。家族や隣人の安否確認や、救助対象者の発見など、災害時の防災活動を身に着ける事で、防災意識の高い地域の担い手が育成出来ます。中学生防災リーダー養成講座修了証を交付することで、中学生間に防災意識の拡大を期待したい。平成 29 年 11 月の町防災訓練に自主的に生徒 19 名が参加してくれました。

《 事業実施方法と期待効果 》

町の防災リーダー養成事業の「修了証」交付後の地域活動者比率が半数以下である。大半が高齢者であり、活動は短期間で年齢的にも体力的にも、やむなしと思われる。そこで、中学生向けカリキュラムを作成し、防災リーダー養成講座を休日や夏休みに開校して、町の養成講座同様に修了証を交付することで、意識醸成となり、地元の防災訓練などへの参加も期待出来る。防災交通課の取組みしている小学校では「自分の命を守る」授業の展開、中学生からは「自らも考えて、人を助ける」実践訓練を体験することで、生徒たちの防災意識も高くなり、共助としての活躍も期待できます。

《 協働取組み事業の対象先 》

防災交通課 企画政策課

学校教育課（武豊中学校 富貴中学校）

《 事業時間 》

中学生の休日などを利用して、3つの講座を開催する。

- ① 防災講話を受講（災害に備える防災意識の大切さを知る）
- ② 防災講座（過去の災害や備えを解説し、グループワークで認識を高める）
- ③ 防災実践訓練（応急手当・担架、避難所開設、家具固定）を習得する。
- ④ 講習修了者には、「中学生防災リーダー養成講座修了証」を交付。

◇中学生防災リーダー養成講座方法について

事業団体：武豊町防災ボランティアの会

《中学生防災リーダー養成講座条件・対象及びカリキュラムと募集》

1, 受講者条件と特典

- ① 武豊町立武豊中学校、武豊町立富貴中学校の生徒とジュニアボーイスカウト
- ② 事業「中学生防災リーダー養成講座」3回の講座を受講した生徒に「中学生防災リーダー養成講座修了証」交付する。

2, 防災講話 講師：兵庫県立大学大学院准教授：阪本真由美氏

「災害の話し（災害事例や大災害史、備えと被害）を聞く」

目的：防災・減災の大切さを知り、防災取組み意欲を増進する。

※講話が目的通りであれば、学校や地域の防災講話も対象とする。

*29年度は武中1年生全員が野尻先生の防災講話を受講している。

3, 防災講座 講話と講座 あいち防災リーダー、武豊町防災官、町防災リーダー、あいち防災推進協議会、防災・減災カレッジ啓発指導者 日本赤十字社救命指導員

*防災ボランティアの会 武豊町自主防災会（ファシリテーター参加）

(1) 方法：各50分

- ・自然災害事例から、備えと減災取組みを考える。
- ・参加者をグループ編成、ファシリテーターを交えグループ討議をする。

(2) 講座テーマ：

- ・巨大地震が起きたら・どうなるか。どうしたらよいか考える。
（自分や家族の地震への備え、耐震や家具固定、一時避難と安否確認）
- ・集中豪雨や台風等自然災害はなぜ起きるか。備え方を考える。
- ・町の防災リーダーの活動（自主防災会組織）訓練活動を知る。

4, 防災訓練と講座：各50分

講話と指導 防災ボランティアの会（各部会） 日赤奉仕団 消防署

(1) 応急手当訓練（けが人の応急手当、止血）

- ・講話と指導 日本赤十字社

(2) 応急担架づくりと搬送訓練（けが人や要援護者）ロープワーク等

- ・講話と指導 防災ボランティア訓練部会

(3) 避難所開設（避難所開設手順・避難者受付と避難所認識事項の学習）

- ・講話と指導 防災ボランティア啓発部会、VC部会

(4) 家具固定（家具固定手順と道具の取扱い習得）方法を知る。

- ・講話と指導 防災ボランティア家具固定部会

5, 募集案内については、案内チラシと申込み書をセットして準備します。

- ・募集案内は、全生徒への配布と申込者の受付をお願いします。
- ・申込書情報は、学校にも報告することを明記し、本人と保護者承諾を頂きます。
受付後の連絡方法は、申込者と保護者に直接郵送します。
- ・申込み人数など、予想外の事態が生じた場合は、別途ご相談させていただきます。
その後も、フォローアップ講座を継続的に開催する方法を防災交通課と協議します。

以上、30年度も予定しています。何卒よろしくごお願い申し上げます。